

2016 年 4 月 18 日

超音波内視鏡下穿刺吸引術向け、ディスポーザブル吸引生検針を新発売 基本性能の向上を目指す

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、ディスポーザブル吸引生検針「EZ Shot 3 Plus (イージーショットスリープラス)※1」を 2016 年 4 月 21 日から国内で販売開始します。同製品は超音波内視鏡を用いて行われる「超音波内視鏡下穿刺吸引術」(以下 EUS-FNA)に使われる針(処置具)です。

超音波内視鏡に挿入する部分(シース※2)は柔軟性を追求しており、膵頭部(すいとうぶ)など、臓器内のアプローチしにくい部位へのアクセスをサポートします。また、穿刺※3(せんし)用の針の素材や、針先の形状の工夫により組織への刺さりやすさを追求し、より精度の高い診断の向上に貢献致します。

※1 本製品の愛称。販売名は以下「発売の概要(国内)」を参照

※2 シース:針を覆っているコイル状の部分(次ページの写真を参照)

※3 穿刺:血液や体液、細胞などの採取のために、体外から血管、体腔内、内臓に針を刺すこと

超音波内視鏡下穿刺吸引術(EUS-FNA:Endoscopic Ultrasound-Fine Needle Aspiration)とは

超音波内視鏡を用いて行う検査の方法で、治療方針を決める重要な手技です。口から超音波内視鏡を挿入し、超音波で粘膜下の状況を確認しながら、直接内視鏡ではアクセスできない膵臓(すいぞう)、粘膜下腫瘍(しゅよう)、リンパ節などに、消化管壁を介して針を刺し組織・細胞を吸引採取します。採取された組織は顕微鏡などで良性か悪性かの病理診断を行います。

●発売の概要(国内)

販売名	発売日
ディスポーザブル吸引生検針 NA-U200H (愛称: EZ Shot 3 Plus :イージーショットスリープラス)	2016 年 4 月 21 日

上記デバイスは、システム本体の「EU-ME2 シリーズ」「GF-UCT260」と組み合わせて使用します。

●主な特長

1. 高いアクセス性:挿入部に、柔軟なコイルシースとナイチノール針を採用。アクセスが難しい部位へのスムーズなアプローチに貢献
2. 高い穿刺性:鋭利に加工された針先(メンギーニ形状)を採用。硬い組織でもスムーズに刺せる高い穿刺性を追求
3. 操作性・視認性の向上:ハンドルの使いやすさと、超音波下の観察での針の見えやすさを追求



ディスポーザブル吸引生検針「EZ Shot 3 Plus:イージーショットスリープラス」

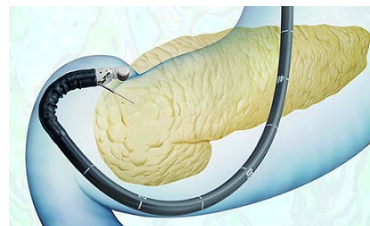
＜本件に関するお問い合わせ先＞

- 報道関係の方 : オリンパス株式会社 広報・IR 部 長見
TEL: 03-3340-2188(直通) FAX: 03-6901-9680
- 報道関係以外の方 : 内視鏡お客様相談センター TEL: 0120-41-7149
- ホームページ : <http://www.olympus.co.jp>

※本製品の製造販売元はオリンパスメディカルシステムズ(株)です。

●開発の背景

EUS-FNA(超音波内視鏡下穿刺吸引術)は、病理学的な確定診断に貢献する検査手技として普及が進んでいます。1990年初頭から欧米を中心に行われるようになり、国内では2010年の保険収載を期に広く普及しています。EUS-FNAでより正確な診断を行うためには、狙った部位に穿刺できることが求められます。しかし、膵臓がんがよく発生すると言われる膵頭部などへはアプローチが難しく、内視鏡の先端を大きく湾曲させて行う場合があります。湾曲状態の内視鏡の中でも少ない力で滑らかに動かせ、狙った位置へ滑らず穿刺できる必要があります。今回開発されたイージーショットスリープラスは、それらのニーズに応えるために開発されました。



湾曲した内視鏡のイメージ

●主な特長の詳細

1. 高いアクセス性: 挿入部に、柔軟なコイルシースとナイチノール針を採用。アクセスが難しい部位へのスムーズなアプローチに貢献

超音波内視鏡の先端が大きく湾曲した状態でも、イージーショットスリープラスを挿入しやすい設計を目指しました。コイルシースの採用により、内視鏡を大きく湾曲させても抵抗の少ない挿入をサポートします。穿刺用の針管には形状保持力と柔軟性の高いナイチノールを採用。急峻(きゅうしゅん)な角度でもスムーズな針の出し入れをサポートします。また、ナイチノールは弾性が高いため、優れた形状保持力を発揮します。内視鏡の湾曲部を通過しても針が変形しにくく、耐久性を備えています。



コイル状のシース

2. 高い穿刺性: 鋭利に加工された針先(メンギーニ形状)を採用。硬い組織でもスムーズに刺せる高い穿刺性を追求

より組織へ刺さりやすい針先の設計で、硬い組織でもスムーズに穿刺することを追求しました。針先はサイドホールあり、なし両方のラインアップをそろえています。



サイドホールがあるタイプの針管



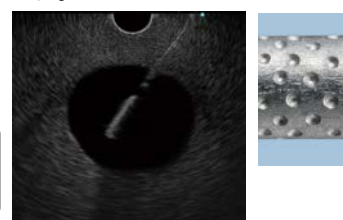
鋭利なメンギーニ形状で刺さりやすさを追求(左)。従来品(右)

3. 操作性・視認性の向上: ハンドルの使いやすさと、超音波下の観察での針の見えやすさを追求

手元の操作部は、すべりにくく使いやすいハンドル形状を採用しました。また針の先端の表面の加工を改良し、超音波下の観察での針の見えやすさを追求しています。



超音波下での針の見やすさを追求(左)
改良された表面加工(右)



本リリースに掲載されている社名および製品名は各社の商標または登録商標です。